

指導者 塚本 葵
 日時 令和3年11月22日(月) 13時30分～14時15分
 学年 第5学年1組 男子23名 女子14名 計37名
 単元名 ふるさと音戸の産業を発信しよう ～かきレンジャー&ちりめんジャー～

1 単元について

このような単元です

- 生活科「はたみの町探検」、3年生総合的な学習の時間「大好き音戸の町！」の中で音戸の海を学習対象とし波多見の海の生き物と親しんできた児童が、1年間を通して、水産業という視点から「ふるさと音戸・波多見」の海について探究的に学びを広げ深めていく大単元である。
- 小単元②～かきレンジャー～では、生産高日本一の呉市の牡蠣について、「牡蠣の生産」と「生きものとしての牡蠣」に関わる課題解決に向けて、体験的・探究的に学んで情報収集し、整理分析し、発信することを通して、地域への愛着を深め、地域の一員としての自覚を高めることをねらいとしている。
- 音戸の牡蠣は児童にとって親しみのあるものである。全国的に見ても広島県は牡蠣の生産量が多い県として有名であるが、呉市が全国1位の生産量であることはそこまで知られていない。自分たちの感覚とのギャップがあることから、児童が自ら課題を立て、課題解決のために意欲的に取り組むことができる題材であると考えられる。

このような地域・児童です

- 音戸地域(波多見)の海で生産される有名な水産物が牡蠣やちりめんであることはよく知っており、牡蠣いかだや漁労船はよく目にしている。しかし、児童にアンケートを行ったところ、「ちりめんや牡蠣の産業について知っていますか。」の質問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は36.4%であった。また、「音戸町でちりめんや牡蠣の水産業が盛んな理由を知っていますか。」の質問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は21.2%であった。
- 様々なことに興味・関心をもち、体験的な学習には意欲的な児童が多い。しかし、自ら課題を立てて追究したり、課題解決のために活動を計画したりする力は不十分である。
- これらのことから、児童に音戸の水産業について知る機会を与え、自ら課題を立てて追究したり、課題解決のための活動を計画したりする機会を与える必要がある。

だからこのような授業をします

- 小単元～かきレンジャー～の導入で、児童に牡蠣の生産量に関する資料と、広島産牡蠣と書かれたファミリーレストランのメニュー表の写真を提示する。全国的に見ると広島県は牡蠣の生産量が多い県として有名であるが、呉市が全国1位の生産量であることは全国的にはそこまで知られていないのではないかとこの考えをもたせることで、再度学習課題「ふるさと音戸の産業を発信しよう」につなげ、児童の課題意識を高める。
- 課題解決の方法として、山・海・島体験活動でのプレゼン、ホームページの開設を行うという見通しをもたせる。
- 牡蠣の生産や生態について知るために、インターネットを使って調べ学習を行う。その後、新たに出てくる疑問を解決するために、見学やインタビュー、体験活動を重点的に行う。
- 小単元～ちりめんジャー～のインターネットを使った調べ学習では、音戸町ではない水産のちりめんについて調べてしまい、実際に音戸町で行われているちりめんの加工方法と異なる資料を作ってしまった。調べ学習の方法を考える際は、その時の反省を取り上げることで、児童に「音戸の産業を発信する」という目的に合った方法を考える機会を与える。

<国語の表現の単元に関連させたいこと>

- 国語科「知りたいことを聞き出そう」で、インタビューの仕方について学習した後、見学や水産で働く人へインタビューを行う。
- 国語科「資料を見て考えたことを話そう」で、資料から考えられることを相手に伝えるようにするためには、話の構成に着目したり資料と関連付けて説明したりすることを学習する。その後、ホームページに掲載する資料や言葉を考えさせていく。
- 国語科「問題を解決するために話し合おう」で、問題解決のための話し合いの進め方を学習しておく。

2 単元の目標

単元の目標 「ふるさと音戸の産業を発信しよう」

音戸地域(波多見)の水産業に携わる人や組織やその仕事と関わりを深め、探究することを通して、主体的・協働的に課題を解決する能力を高めるとともに、学び方や考え方を身に付けて、地域(波多見)の自然や地域の特色を生かした水産業に携わる人々の知恵や工夫や努力について学び、音戸地域(波多見)の一員としての自覚を高める。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	協働的に関わる力	地域の一員として関わる力
① インタビューや調べ学習によって、目的や対象に応じた調査活動を実施している。 ② ホームページにまとめ、発信するための取組は、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	① ちりめんじゃーでの学習の反省を生かして、目的に応じた調べ方を考えることができる。 ② ホームページに掲載するために必要な情報について、多様な方法で収集している。 ③ 課題の解決に収集した情報を分析・整理することができる。 ④ 来年度の活動に向けて、考えを分かりやすくまとめている。	① コミュニケーションを通して、互いの良さを生かし、協働して解決することができる。	① 呉・音戸の一員として課題の解決に向けて、自分ができることを考え、実践しようとしている。

4 指導と評価の計画(全35時間)

学習活動	知	思	協	地	評価方法	関連する教科
課題の設定(1) ・今後の学習計画を立てる。 ・ちりめんじゃーでの学習を生かして、音戸の牡蠣の調べ方を考える。(本時)		①			・ワークシート、 発言	
情報の収集(11) ・インターネットを使って、設定した課題について調べる。 ・地域の生産者に見学・インタビューのアンケートをとる。 ・地域の生産者を訪ねて、インタビューを行う。 ・お礼の手紙を作成する。	①	②			・行動観察 ・手紙	国語科 「知りたいことを聞き出そう」
情報の収集・分析(12) ・収集した情報を整理し、ホームページに掲載する記事や資料を作成する。 ・読む人に牡蠣の魅力が伝わる記事になっているか話し合う。 ・加筆、修正を行い、ホームページに掲載する記事を完成させる。		③	①		・記事 ・行動観察、振り返り	国語科 「資料を見て考えたことを話そう」

実行(2) ・作成した記事をホームページに掲載し、閲覧者数の確認をする。	②			・振り返り	
課題の設定(1) ・ホームページの記事の閲覧者数を増やすにはどうすればよいかを考える。			①	・行動観察, 振り返り	国語科 「問題を解決するために話し合おう」
実行(3) ・ホームページの記事の閲覧者数を増やすために考えたことを実行する。(保護者や北広島の民泊家庭へお知らせの手紙を出す等。)	②			・行動観察	
まとめ・振り返り(5) ・活動の記録を作成し、来年の5年生の活動の手立てを残す。 ・活動の振り返りを行う。		④	①	・記録 ・振り返り	

5 本時の目標

ちりめんじゃーでの学習の反省を生かして、目的に応じた調べ方を考えることができる。

【思考力・判断力・表現力】

6 本時の展開(本時 1/35時間)

学習活動	予想される児童の反応	指導上の留意点(○) (「特に配慮を要する」児童への支援●) 資質・能力にかかわる指導(☆)	評価規準 (評価方法)
1 「学びの宝石」を確認する。			
2 資料から牡蠣に関する情報を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・牡蠣の生産量は全国で広島県が1番多い。 ・広島県の中でも呉の生産量はトップクラス。 ・ファミレスのメニュー表には広島県産としかかかれていないため、全国的には呉市の生産量が多いことはあまり知られていないのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ロイロノートで資料を配布する。 ○この活動で、音戸の牡蠣を全国に発信するという目的を明確にする。 	
3 本時の課題を確認する。	音戸町の牡蠣を全国に知ってもらおう方法を考え、学習計画をたてることことができる。		
4 音戸町の牡蠣を全国に知ってもらおう方法を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレット,チラシを配る。 ・全国に発信できる方法がいいと思う。 ・ホームページに牡蠣についての記事を掲載する。 	○児童の意見から全国に発信するという目的に合う方法を考えさせることで、ホームページに記事を掲載する方法にしぼる。	
5 ちりめんじゃーでの反省から学習計画を考える上での見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ちりめんじゃーでは、他の地域のちりめんについて調べていた。 ・加工の仕方が実際に聞いた方法とちがっていた。 	☆教師が用意した児童の失敗を元に作成したちりめんのプレゼン資料を提示することで、調べ学習での失敗を想起させる。	

<p>6 学習計画をたてる。 個人で計画を考えた後、班、全体で交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介した料理も地元ならではのものではなかった。 ・音戸に密着したものになっていなかったから、音戸の宝を上手く伝えることができなかった。 ・調べるときは、音戸のものを調べるようにした方がいい。 ・牡蠣について調べる。 養殖の仕方 →インターネット、見学 牡蠣を使った料理 →保護者や水産で働く方にインタビュー ・ホームページに掲載する記事の作成・改善。 ・ホームページに掲載。 ・音戸の牡蠣を知ってもらうのだから、調べ学習では音戸の牡蠣の特徴も調べた方がいい。 ・インターネットで調べるときには「音戸の牡蠣」で調べないと、別の地域でのことが検索されてしまう。 	<p>○ワークシートを配布する。 ●学習計画の参考に、ちりめんジャーでの学習計画を提示する。 ○班で考えた学習計画をホワイトボードに書き込み、提出させることで、全班の考えを共有出来るようにする。</p>	<p>思考力・判断力・表現力① (ワークシート、発言)</p>
<p>7 本時のまとめと振り返りをする。</p>	<p>【学習計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 音戸の牡蠣について調べる (特徴, 養殖の仕方, 料理) →インターネット, 見学, インタビュー 2 ホームページに掲載する記事の作成・改善 3 ホームページに掲載 		

7 単元で育成を目指す資質・能力に係る成果と課題

成果

- 本校児童にとって、「学校に隣接する海、教室の窓から毎日見慣れている海」を再認識させるためには、どのように本質的な問いを設定するのか協議した。そこで、本質的な問いを「わたしたちは波多見の海・地域とどうかかわり、どう生きるか。」と設定した。



大浦崎公園の海浜

全校で一貫したテーマを設定することにより、学年に応じた素材を見付け、各教科との関連や地域の方々との連携を図りながら、「ふるさと音戸・波多見」の海について探究的に学びを広げ深めることができた。

- | | | |
|-----------------|---|----------|
| 3年…海の生き物 | ⇔ | 水産試験場の方々 |
| 4年…音戸の舟歌 | ⇔ | 音戸の舟歌保存会 |
| 5年…水産業(ちりめん・かき) | ⇔ | 水産業者の方々 |
| 6年…防災 | ⇔ | 防災士さん |

- 5年生は、1学期の学習「ちりめんジャー」のインターネットを使った調べ学習で、音戸町ではなく、全国の様々なちりめんについて調べてしまうという失敗体験をした。そこで、「かきレンジャー」の学習では、音戸や波多見の地元の資料を収集したいという意欲が高まり、インターネットだけでなく、実際に間近で働く方々の姿や声に触れたいという思いをもち、体験活動に広げることができた。



かき打ち場の見学



大浦崎公園の海浜清掃

- インタビューの仕方、資料づくりの構成の仕方、また、問題解決のための話し合いの進め方等は、国語科の単元とからめて学習をすることができた。
- ふるさと波多見のよさや特徴を明確にするためには、他の市町との比較を行うことが効果的である。そのため、「ちりめんジャー」では、民泊体験先の北広島町で、海の生活を山の生活の方々へ伝えようと目的意識が高まった。
- 単元で育成を目指す資質・能力については、以下のような記述が見られた。
 - ・ちりめんのプレゼン発表で、発表の仕方、資料の作り方などを知ることができました。この学びを、HP作りでもいかしていこうと思います。【知識・技能】
 - ・発表の仕方では、「ジェスチャー」「声」「目線」など、気を付けないといけないことはたくさんあったけど、このプレゼン発表でできるようになりました。本当にいい経験だったなと思いました。【思考力・判断力・表現力】
 - ・資料をつくる時には、みんなで協力しながら、文字の大きさを大きくしたり、イラスト・写真を入れたりして、聞き手の気持ちを考えて工夫することができました。【協働的に関わる力】
 - ・これから牡蠣のHPを作るとき、ちりめんのプレゼン発表や見学、イベント参加などでの学びをいかして、世界中に牡蠣の魅力を発信していきたいです。【地域の一員として関わる力】

2学期の総合の振り返り

- ・学んだこと
- ・学びをどのように活かしていきたいか
- ・学習をふまえてみたいこと

・ちりめんのプレゼン発表で、発表の仕方、資料の作り方などを知ることができました。

発表の仕方では、「ジェスチャー」、「声」、「目線」…など、気を付けないといけないことはたくさんあったけれど、このプレゼン発表でできるようになりました。本当にいい経験だったなと思いました。

資料の作り方では、文字の大きさを大きくしたり、イラスト・写真を入れたりして、聞き手の気持ちを考えて工夫することができました。この学びを、HP作りでも活かしていこうと思います。

これから牡蠣のHPを作るとき、ちりめんのプレゼン発表や見学、イベント参加などでの学びを活かして、世界中に牡蠣の魅力を発信していきたいです。



課題

- 「かきレンジャー」では、さらに発信を広げたいという思いはもったが、漠然とみんなに伝えるのではなく、具体的に相手を絞って活動計画を立てる方がよかったことがうかがえる。